

# 上今井遊水地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 南大原遺跡

- ・縄文時代～平安時代
- ・全国的にも古い鍛冶遺構を含む弥生時代中期後半（栗林式期）の拠点集落

## 調査対象

遊水地掘削にかかる約 380,000 m<sup>2</sup>（～令和 10 年 3 月）

## 調査体制

長野県埋蔵文化財センターを中心に、中野市からも人的応援（会計年度任用職員 1 名）  
来年度以降、民間調査会社も支援導入

## 現状

7 月 11 日、現地事務所開設。現在、現地踏査等実施。

## 令和 5 年度の調査概要（予定）

- 1) 調査箇所 1・2：オーソドックスな発掘調査  
自然堤防上に位置し、遺構分布が確実とみなされる場所。  
200 m<sup>2</sup>程度を人力掘削。遺構密度、深さ、面数を把握。
  - 2) 調査箇所 3：地質調査機器「ジオスライサー」を用いた調査  
水田域（近世？）と想定される箇所  
近世水田のみと判明すれば、人力掘削は行わない。
  - 3) 調査箇所 4・5：簡易ボーリング調査  
試掘調査で、集落（平安時代？）の存在が疑われた箇所。  
バックホー掘削よりも簡易なボーリングで、地下の状況を把握。
- 以上により、次年度の本格的発掘調査に向けて詳細な情報を得る。

